



高田地区キャラクター
「たかたん」

高田町内会だより

第 26 号
発行日: 令和2年2月1日
発行者: 高田町内会
会長 宮田 寿雄

町内会も「働き方改革」



高田町内会会長
宮田 寿雄

「働き方改革」に取り組んだ成果なのか、今年はデパート・スーパーの多くは元日休業しました。

政府も各種団体に働き方改革を推進しています。

町内会も働き方(ボランティア活動の内容)を考える時期に来ています。そこで私は今年の町内会テーマとして「働き方改革」を挙げ全会員に問います。具体的には「何時? 誰が? 何をする」と言い尽くされた言葉ですが永遠のテーマです。ご意見を班長経由理事宛にお聞かせ下さい。

働き方に関する理事間の共通認識としては「楽しい町内会活動」です。安全が確保され、清潔で明るく、安心して暮らせる街作りの為住民全員の力を結集して、良い街作りに取り組みましょう。

私達高田町内会の役割は昔も今も地域の先頭に立って活動する事です。働き方改革に取り組む町内会活動にご理解とご協力をお願い致します。

第3回班長会

台風19号襲来への対応

令和1年10月27日(日)午後1時30分～
於: 高田研修所

- この日の予定は「防火・防犯について」の講演と、その他議題は、
- ①高田地区一斉防犯パトロールについて
 - ②災害時要援護者の見守り活動について等でした。

講演会の講師に予定していた方が急病のため欠席となりました。そこで、宮田会長による台風19号の襲来に伴う高田地区の状況とその課題についての報告となりました。

避難した人 高田中に130人！ 高田東小に150人！



台風襲来時の対応を報告する宮田会長

宮田会長の話は次の通りです。避難した人たちへの対応は区役所と市役所の職員4人があたりました。避難した人数に対して、職員が少なく受付の机・椅子・受付用紙類を用意するのが精一杯で、てんやわんやの状態だったようです。

地震時では区役所と町内会が連携して運営にあたることになっています。しかし、風水害ではあらかじめ予測できるの町内会は係わらなくて良い事になっています。風水害時でも町内会が係わるべきではないかという課題が残りました。



班長会の受付

地震時では区役所と町内会が連携して運営にあたることになっています。しかし、風水害ではあらかじめ予測できるの

町内会が係わるべきではないかという課題が残りました。



参加者からの質問に答える青木副会長



発電機などの防災備品の展示

台風15号、19号、そしてその一週間後の集中豪雨と立て続けに災害にみまわれ、地域住民の関心が高まっている中での訓練でした。

参加者は普段見たことがない防災備蓄品の見学を行いました。拠点委員の説明を熱心に聞いたり、いろいろな防災備品に見入っていました。

プロパンガス使用の大釜での炊き出し風景を見学、簡易給

水栓の説明と見学した後、体育館に集合。参加者は、エアマットを作り座布団代わりに敷いて説明を聞きました。

トイレを使用した後、固形になった排泄物を自動的にラップしてくれるトイレの説明と実演、今回初めて避難者カードを手に取り拠点委員の説明に耳を傾けていました。体育館のスペースには「ファミリールーム」等のテントが展示され見学しました。



自動的にラップしてくれるトイレの実演



炊き出しを行う拠点委員

朝から雨の寒い日でしたが、約100余名が参加しました。



1度に30kg 炊ける大釜

最初に災害食学会の方から「災害時の食について」のお話を聞きました。災害時の食では、元気を与える温かいご飯の食事を摂ることが大切で、非常食が炭水化物に偏るため栄養バランスの良い食材（魚肉ソーセージ、ドライフルーツ）を備蓄すると良いとのことでした。

その後、3グループに分かれ、順繰りに体験しました。

①「女性視点の避難所づくり」では避難所で安心して過ごせるように、避難者全員が女性の意見を取り入れて、安全な避難所づくりを実践しようとのことでした。

②「炊き出し」では、1度に30kgのご飯を灯油や薪で炊けるもので、その大きなお釜に見入っていました。

③「パッククッキング」では、カセットコンロ・水・鍋とポリ袋で出来る簡単な調理方法で、スクランブルエッグはポリ袋にマヨネーズを入れ、卵を割って煮ただけなのに熱々で美味しいと好評でした。

防災拠点運営委員 森田



雨の中、100余名の参加



ポリ袋で調理のパッククッキング

令和2年・3年度の理事が決まりました

理事選出について11月の回覧で、新理事候補の受付から選挙についてお知らせしましたが、競合せず定数となりましたので、選挙を行うことなく次の通りとなりました。

(五十音順、アンダーラインは新任)

相沢 一夫	青木 繁義	石井 孝光	角元 賢二	門屋 佳子	金子 正一	北見 喜重
小森谷 尚彦	<u>佐久間 元照</u>	桜庭 昌	篠原 力	鈴木 明	<u>関口 正徳</u>	芹田 喜代治
高沢 芳正	<u>高橋 久雄</u>	田中 光年	<u>塚本 佳弘</u>	西井 隆	<u>笛田 重喜</u>	古屋 靖夫
<u>本田 良介</u>	<u>箕浦 千春</u>	箕輪 秀次	宮田 寿雄	<u>宮田 利一</u>	森田 直人	<u>渡部 慎司</u>

第35回港北駅伝大会

今年も健闘！ 4位獲得

令和2年1月19日(日)

於：日産フィールド小机



賑やかなスタート前

前日は雪が降りましたが、当日は好天となり大勢の人が詰めかけました。高田町連合町内会は「連合町内会の部」に2チームエントリーしましたが、メンバーが揃わず1チームの参加となりました。

第一走者の高橋選手は好位置でスタート。4kmを走り1位で戻ってきました。チームは小学校低学年男女(1km)から40歳以上(3km)を含む9名のメンバーで構成されています。



青空の元、スタート

上位をキープしながらタスキが引き継がれていましたが、周回遅れが交じりはっきりした順位がわかりません。アンカーが残り1km当たりとなる坂道を4位で登って来た時ざわつき、応援にも力が入りました。

昨年は3位でしたので一つ順位を落としたものの、チームも応援も一致団結し健闘されました。



アンカーが土手道を力走



4位を受賞する高田チーム



清々しい選手・監督一同

「ほっぷ」と「ゆずの樹」がフレオープン

11月2日(土)に子どもの居場所・フリースペース「ほっぷ」(高田地区社会福祉協議会など後援)が高田西3丁目の「マル正ストア」内にスタートしました。現在、毎月第1・第3の土曜日、午前10時～午後3時オープンしています。

利用対象:小学生・中学生・高校生・未就学児と保護者

利用料:無料



4月オープンに向けて12月7日(土)に「ゆずの樹」がプレオープンしました。子どもから年配の方まで笑顔でいっぱい居場所になることを願って、準備をしているそうです。

すでに時々イベントが開催されています。

1日の利用料:200円(中学生まで無料)

お問い合わせ:高田地域ケアプラザ 045-594-3601





永年公園愛護会(齋藤登会長)が続けている公園の草取り・花壇の手入れ・掃除等の活動が認められ、表彰されました。

この公園には、高田地区で一番大きいと思われるイチヨウや三本の目立つヒマラヤスギがあります。園内は上下に分かれ、上の段には遊具、下は



愛護会手作りの花壇

ートボールやグラウンドゴルフをする高齢者でにぎわいます。

愛護会が手作りした花壇は手入れが良く、紫陽花・チューリップやビオラ・パンジー等が楽しめます。見通しが良い明るく開放的な公園です。

表彰式当日に配布された資料に、高田第四公園が次の様に紹介されています。

「定例の活動は毎月第三土曜日ですが、それ以外にも随時清掃や花壇の手入れなどを行っています」

「すべての樹木にはオリジナル樹名板を取り付け、公園を利用する方に樹木の特徴がよくわかるととても好評です。樹木の位置がわかりやすいように園内の樹名板配置図も取り付けました」

第四公園には、次のような花木があります。ハクモクレン・ユキヤナギ・枝垂れ桜・ヤマブキ・オオムラサキツツジ・アメリカハナミズキ・紫陽花・金木犀等です。散歩がてら楽しんで下さい。



遊具がある上の段



広々とした下の段

高田って どんどころ？ —22—

横浜市立高田小学校 —2—



昭和30年代の高田小学校と3本のポプラ

高田小学校は、今年2月10日で創立145年を迎えます。開校した明治7年当時の創立記念日は8月1日でした。それが昭和25年から2月10日になりました。

明治22年、新羽村・高田村・吉田村が合併して、都筑郡新田村になりました。昭和4・5年ごろ、日本中は農業恐慌だった為、経済の不況に災いされ、全国いたるところで教員の失業や減俸騒ぎがもち上がり、教育界はかつてないほどの不景気の波にさら

られていました。新田村も一村に二人の校長はいらないうことで、高田尋常小学校を新田尋常高等小学校の分教場にするということになりました。その事を知った高田住民は、連日連夜協議をし、関係方面に陳情し、小学校存続運動が続けられました。おそらく、高田の方が先に学校を建てたのにならぬ思いがあったのでしょう。まだ学齢に達しない子供や母親たちも嘆願に奔走したのですが、効むなく分教場にさせられました。まだ都筑郡

新田村が横浜市に合併される7年前の昭和7年のことです。(金子正一)

編集後記 「高田町内会だより」は、年4回(5・8・11・2月)発行しています。毎号楽しみにして下さる会員の方が多く、編者の一員として身の引き締まる思いです。これからも取材力を上げ、文章も簡潔で分かりやすく、楽しく読んでいただけるように努めていきます。(S. K)